



嗣子の辨

三浦 忠 園 十 七 年

その他

特別
又4
4899
18



副子辨



嗣子の辨

人家不棄子て子之成時、弟わきハ、子孫成子
〜孫わきハ、長孫と云〜女子わきハ、婿と云り
て、長家成終、其、從らば、時を、回復し、いと、あ、從らば、
此、異姓、〜と、い、あ、その、家の、絶、し、は、を、その、家の、た、や、初
記、家、と、是、り、ふ、ら、り、た、者、や、と、く、終、と、云、り、此、ハ、孫、と
明、す、〜と、い、ひ、〜、明、さ、る、如、り、〜と、云、り、〜の、法、ハ、長、血、脈
と、云、り、ん、と、云、る、す、と、く、回復、内、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、
ち、ま、さ、〜と、云、り、新、絶、と、云、る、事、如、り、女子、ハ、〜と、云、り、〜と、云、り、
〜と、云、る、風、如、り、〜と、云、り、〜と、云、り、地、族、と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、
如、此、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、
〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、〜と、云、り、

畢竟隆らる統たりしこの學者からの書は見られ
つゝのあゝわこころ事とい疑いあやしくは學者
の蔽りありし但練諸侯のふのこは論しそ子
以所り天これと絶ちまひ由縁をいしこいこは
い人い長ち他のよりり他縁つぐ一こいこは
あつこい但練の統りしこはまこと今一ふの最
君よりりことまひ孤伏めみま子ほれと援助
しる者哉とやそまは伏名をよ拘り人の父母事
は練縁しこ海登少特せしこち他生もの他り
負をいさ者れ見よわこころこちあしは事いさ知
らるゝふふのあつこころこちの人はあかんつえ

ち他生物の他ふと一なつるこ山もはこり然
このまは國族親戚のこち子人いまこち他のよりり
このまを見ぬこち和邦しこま子れ始とい
ち神宮まま豊島るれこ子天恩徳身を成るのこ
津り嗣とらるしこ縁ひしこち始りしこん女子
こして統とこちひしこは又 ち神文法始
子と 推古 欽めのひよとて 崇峻帝の讓
とけけのひ 元正 天武の西縁とて 文武の
後と嗣縁ひしこれその創より下けさあひし
さそは是ふよ教せる事と多りしこはのこち酒余
の尺山保政事成ゆはせしこはさか子又のふは

及_レ理_レり害_レが_レん_レく_レたりす_レ武_二つ_一てん_レなり_レ然_レに
是_レ亦_レに_レ婦_レり_レせ_レの_レ能_レる_レと_レす_レり_レ交_レわ_レり_レあ_レと_レん_レく_レは
ま_レ然_レん_レま_レい_レあ_レも_レ能_レる_レや_レわ_レく_レ次_レを_レり_レ名_レ稱_レの_レ明
り_レこ_レり_レり_レ起_レき_レり_レり_レ長_レ所_レ謂_レ者_レ稱_レとい_レ人の_レ倫
理_レ子_レとい_レふ_レあり_レ嗣_レとい_レふ_レあり_レ子_レ嗣_レの_レ辨_レめ_レる_レ次_レ以
能_レる_レとい_レふ_レる_レこ_レを_レま_レ子_レの_レ後_レに_レつ_レく_レこの_レま_レに
又_レの_レ嗣_レなり_レ嗣_レを_レる_レお_レた_レら_レり_レて_レわ_レら_レる_レま_レに_レ子
とい_レふ_レわ_レり_レて_レ子_レの_レ嗣_レなり_レとい_レふ_レは_レま_レに_レま_レれ_レ半
の_レ子_レ常_レあり_レ妻_レわ_レり_レ智_レ能_レき_レは_レ婦_レ長_レ名_レ其_レ家_レとい_レく
て_レわ_レら_レは_レ婦_レ長_レとい_レて_レま_レ家_レとい_レけ_レは_レ婦_レ長_レに
て_レ嗣_レなり_レ能_レま_レら_レし_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣

あり_レ婦_レ長_レとい_レて_レ子_レの_レ嗣_レなり_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
庶_レ子_レに_レ父_レの_レ嗣_レなり_レ能_レま_レら_レし_レて_レ子_レに_レ嗣_レなり_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
嗣_レ誰_レと_レ定_レま_レら_レし_レて_レ子_レに_レ嗣_レなり_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
別_レわり_レ右_レとい_レつ_レる_レ子_レに_レ嗣_レなり_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
嗣_レは_レ子_レの_レ嗣_レなり_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
子_レの_レ年_レの_レ明_レかり_レに_レた_レり_レ嗣_レ伯_レ仲_レ叔_レ季_レ康_レ庶_レ子_レの_レ求
先_レ兄_レ弟_レとい_レふ_レは_レ従_レ兄_レ弟_レの_レ能_レる_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
親_レ族_レとい_レふ_レは_レこれ_レの_レ地_レ族_レとい_レふ_レに_レ求_レじ_レり_レて_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣
て_レとい_レふ_レは_レ子_レの_レ年_レの_レ明_レかり_レに_レた_レり_レ嗣_レ伯_レ仲_レ叔_レ季_レ康_レ庶_レ子_レの_レ求
と_レつ_レて_レ子_レの_レ年_レの_レ明_レかり_レに_レた_レり_レ嗣_レ伯_レ仲_レ叔_レ季_レ康_レ庶_レ子_レの_レ求
ん_レえ_レる_レは_レ是_レの_レ地_レ族_レ兄_レ弟_レの_レ能_レる_レとい_レて_レ其_レ家_レとい_レつけ_レた_レ能_レま_レら_レし_レて_レ嗣

大抵元より位とは次第しくと弟より及せしむ
たり終るに繼ぎたる殷の紂王の兄なり周より
宋と稱し後より周と稱す弟仲子讓より
殷人より稱す事あり周より次天子と其の禹王
より後をあり讓より嗣しむとよはしむるを
もみ帝は此より天子と天子とて一人の
天子とわたりしとて曰族の由りて賢臣を
推し後より天子と讓より天子と稱す其の嗣
して其の天子とわたりて禹より稱す天子
より次嗣の字は唐書に舞讓守德弗嗣とて
下より正月上日受天子文祖としけりといはれ

る方より是嗣の由りて漢人本邦 帝統の
序といふ 神武天皇は 齋齋尊不名尊の
子孫より内由りて 古月命尊の次
と云べ 帝は古くはひび子 綏靖天皇は沙兒
神武天皇は神武の二子と云はれ 神武の嗣は
古くは 白磐帝は 雄略の天子とて 雄略帝
は 允恭帝は 白磐帝の弟は 白磐帝の弟は
古くは 履仲帝の弟は 弘計は 履仲の二
君と云はれ 履仲帝は 允恭帝の兄
として 仁徳帝の天子と云はれ 仁徳帝
白磐帝の真孫は 履仲の弟は 仁徳帝の弟は

たり位と讓るわんはの弟位中のみ讓るは
多き勢はの帝位より後上は 顯宗天皇に
此より一と見れば計の思ハ儲の宮より
顯宗天皇より一と見れば計の思ハ儲の宮より
帝位と 孝徳帝の讓り給ひ 孝徳帝崩御
の後其の位と姉とせ給ひし 聖徳太子の位と
中より一と見れば計の思ハ儲の宮より
と前より 皇位と一と見れば計の思ハ儲の宮より
一と見れば計の思ハ儲の宮より 皇位天皇 聖徳太子代
孝徳天皇 聖徳太子代 齊の天皇と見えし
始を 孝徳 皇位天皇の嗣位の後より 齊明

孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より

孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より

孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より

これ準一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より
孝徳天皇の嗣位の一と見れば計の思ハ儲の宮より

父をいふといひたり子し嗣とすの論あり父と嗣とを言ふといふは古く我子孫國姓を承りていふなり其文といひ

嗣といふは父の義を承る見ゆ 父の位ある人の子なり 下は道徳を傳へ上は位を承るなり 畢克

或は他人の義を承る 嗣といふは別名なり 子と云ふは父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

其義其子と云ふは父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

父の義を承るなり 嗣といふは別名なり 父の義を承るなり 嗣といふは別名なり

我輩に東の部を承るのつとめやの村より

一系者ありあはし四十父のみかたて多し

昔はなかりまゆりのみどりなり曰く一はまかり

いとゆきつれと姉妹のうらむといふ十九貞平

十取はかりなり引きまはしりふ寛保の比を

こゝろより次は求むく海前のふき摩の部本是村

いりり是とともめし七年終めして曰くみかたて

らたのむしは陰とぬき心地しくみかたてなり

たり果人わりとらしてやりにて是は豊しなりなる

小なつかりとかりむし一親の比をすき一地の

かし有るなり一は海にぬきとらなり 晒ぬきハ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

とある源とありし神とひんて御とさるんをりあ
 ぬとく出^や次^ひひとふすちを姉のちん好
 をねとねのそねのこくいふつりしに
 去るるの長女は 玉の守りまきこえを責ぬ
 ことだぬひがた 貞年痛をねふらぬとて
 ねね一は少くねれを得是をんこととらん口也
 いんこれを情よりふ由ねこととんよいつら
 君は揚と茶を思ひぬん推しこもさる後
 終としし子孫の賢とひん親みつらことぬ
 男は後ありたりは孔子の對こくきを内し
 ころ貴しき事生たりはひんをなとす事か
 ぬせりはひんを讀とねしこととて読よりかく

ころりまのしれく中やと廉潔の志くゆを
 親よ女は姉よ友なり事 初^の深のをねるり也
 ころぬぬとて 誠也 盟の人よ名け其固執の
 とねんしは三ひ親よもがひれたのし
 人と會歎とのおまの事しこくもねし 只意電
 廉潔の心とてしをよと夫もしるりとの問ねり
 慈愛廉潔は仁義のあら也この心とねる所
 子しそいなるはししとて又しそい慈
 ころ君しそい慈より衆よあつくる事んを若
 はんとししねめ時を子しそいおなす 後とて

いさかこしに可とわらと考人の原なること
長をえよと多しなりし一は思はれざるが
藍練しらすいとわらこちりさむとわらと
聖賢の証するあら抱り人としけんよの
とまき友よのともくい合りしす存懐忠信の基
とまら流我廉恥の心とせし文のうし
とまらのとれんるもの一文お通の人よなる
を懐激勉勵の始とせりぬし一とまらか
こつとまらものんとしとれかんとまら
をまらとまらとまらとまらとまらとまら
あまらとまらとまらとまらとまらとまら

一しと一抑子うこく共形名とまら一其行
物とまらしと人のまらとまらとまらとまら
ゆらとまらとまら

安永戊戌五月日

孫山三浦晋藏



